

政策 3

暮らし・安心・健康

健康で安心できる暮らしで
 笑顔がいっぱいのまちづくり





現状・課題

本市では、今後も少子高齢化が進行する見込みであり、このことにより、単身高齢者世帯や核家族世帯の増加など、地域社会の相互扶助機能の低下を招くことが予想されます。

このようななかで子どもから高齢者まで、すべての世代が安心して暮らすためには、住み慣れた地域で支え合いながら、市民主体の健康づくりや市民と行政が一緒になった防災体制の構築、また、世代を超えたスポーツ・文化を通じた交流推進など、生きがいや豊かさを実感できることが必要です。

政策の方向性

幼少期からの生活習慣病予防や運動習慣の定着に取り組むとともに、高齢者の「知恵」や「技」を活かした生きがいづくりなどにより気持ちの若返りを図り、健康寿命の延伸に努めます。

また、いつ起こるかわからない災害に備え、町内会等を中心として、住民、企業、団体、学校等が連携・協力し、地域で支え合う体制の整備を推進します。

さらに、先人が培った歴史や文化、伝統、世界につながるスポーツなどにより、地域内外で多種多様な交流を創出し、市民が生活に豊かさと潤いを感じるまちづくりを進めます。

目標指標

数値目標	基準値	目標値	備考
文化・スポーツ施設利用者数	239,124人(H26)	262,000人(H32)	
健康寿命	男性 65.1 歳 (H26) 女性 66.0 歳	66.3 歳 (H32) 67.2 歳	

特色を活かした取り組み

歴史・伝統

歴史文化の薫るまち
歴史と伝統を引き継ぎ生かす

現状と方向

本市には、国指定史跡九戸城跡や国指定重要文化財天台寺本堂をはじめ、歴史的にも価値が高い文化遺産が多くあるほか、古くから伝わる神楽や伝統芸能があるなど、長い歴史と伝統がまちの中に深く溶け込んでいます。

先人から引き継がれてきた特色ある歴史や文化を保存・継承し、活用することで、この魅力ある資源の保護保全に努めるとともに、交流や地域づくりなど、まちづくりに生かす取り組みを進めます。

主な取り組み

文化財・伝統芸能

- 天台寺本堂及び仁王門の保存修理事業を推進し、重要文化財の保護と伝承に努めます。
- 天台寺や浄法寺漆など地域の特色を発信し、多様な交流を促進するとともに、観光や漆産業などの振興にもつなげるため、歴史文化交流施設の整備を進めます。
- 史跡九戸城跡や周辺の環境整備を進め、歴史資源としての魅力を高めるとともに活用を図ります。
- 文化財の指定や保護、研究などにより、文化財の保存と周知を図ります。
- 伝統芸能の保存や継承、発表などの活動を支援するとともに、地域間、世代間での交流を促進するなど、地域づくりと一体となった保存・活用を図ります。

歴史

- 市の歴史や先人の足跡を知り伝えるため、市史関連書籍の充実を図るとともに、市民講座を開催します。
- 歴史民俗資料の収集と研究・活用の推進に努めるとともに、施設整備の検討を進めます。



芸術文化・スポーツ

豊かな心と健康な体を育む
芸術文化・スポーツのまち

現状と方向

芸術文化やスポーツに親しむことは、日常生活に広がりを与え、豊かな心や健康な体づくりの源となります。このことから、多くの人が芸術文化に親しむ機会を創り、活動する人や団体を支援するとともに、市民文士劇に見られるような新たな地域文化の創出に取り組みます。

また、スポーツでは、トップアスリートの育成のための取り組みや、市民の皆さんが生涯を通じて気楽にスポーツを楽しめるよう、スポーツ推進計画を策定し健康づくりを推進します。

さらに、市民文化会館やスポーツセンターなどが集中する荷渡地区が、本市の新たな交流拠点となりつつあることから、芸術文化・スポーツを通じ、若者を中心とした地域内外との交流促進や子育て世代の交流・情報交換など、人の交流機能をさらに高めるため、カーリング場をはじめとした施設整備を検討します。

主な取り組み

交流促進

- 芸術文化やスポーツ振興の視点に加え、地域内外、あるいは、世代間の交流促進という視点から、シビックセンターなど既存施設の在り方やカーリング場をはじめとした施設整備の検討を進めます。
- 企業間の交流や近隣市町村も含めたスポーツ・文化による交流を支援し、より多くの人と出会う機会の創出を図ります。(再掲 P38)

芸術文化

- 芸術文化の技術的な向上と継承、活動の活性化を図るため、芸術文化団体の活動を支援するとともに、活動成果を発表する場の提供に取り組みます。
- 市民が様々な芸術文化に触れることができるよう、優れた芸術作品の鑑賞機会の提供に努めるとともに、拠点施設となる市民文化会館設備の充実を図ります。
- 住民が主体的に取り組む新たな地域文化創出に向けた取り組みを支援します。

スポーツ

- 生涯スポーツを推進する団体等との連携を深めながら、多くの市民が生涯にわたって自主的にスポーツ活動に参加できるよう推進します。
- 競技団体などが行う大会を支援するとともに、トップアスリートのプレーに学ぶイベントや交流会などを開催し、競技力を向上させる意識の高揚を図りながら、競技者の育成に努めます。
- 二戸市体育協会や各種競技団体等と連携を深めながら、全国規模のスポーツ大会等の円滑な運営に努めます。



健康

若い時から健康な心と体づくり
健康寿命延伸への挑戦

現状と方向

私たちが生活する中で健康は何ものにも代えがたい財産です。しかし本市は、脳卒中や自殺による死亡率などが全国でも高く、このような状況を踏まえた健康な心と体づくりが必要です。

このことから、幼少期から正しい生活習慣を身につけるとともに、特定健診受診率を高め、いつまでも健康で暮らせるよう健康寿命の延伸に取り組みます。

主な取り組み

保健事業

- 生活環境の変化によるメタボリックシンドロームやロコモティブシンドローム予防のために、運動の習慣づけに取り組みます。
- 幼少期の生活習慣が大人になってからの生活習慣病に結びつくことから、幼稚園、保育所、小学校などと連携し、若い時からの生活習慣病予防に取り組みます。
- 冬期間でも家中暖かく暮らせる省エネルギー住宅や省エネルギーリフォームの推進により、住宅の中に温度差を生じない住環境をつくり、脳卒中などの原因となるヒートショックの発生予防に取り組みます。
- 悩み等を相談する機会確保のため、引き続き地域での心の健康づくり教室を開催します。



国民健康保険

- 特定健診の受診機会を増やすため、土曜、日曜、夜間健診を実施します。また、未受診者を対象とした追加健診を実施します。
- 特定健診受診率、特定保健指導実施率向上のため、健康マイレージ制度の導入を検討します。
- 自分の健康状態を知るため、生活習慣病予防の普及啓発を図ります。また、個別の相談を強化し、特定保健指導に取り組みます。
- 地域医療を確保するため、2診療所体制を維持し、必要な医療機器等を更新します。
- 平成30年度からの国民健康保険の都道府県化に向け、自主財源の確保に努め円滑な移行を図ります。



福祉

住み慣れた地域で支え合う
福祉の絆づくり

現状と方向

支援が必要な障害者や高齢者が、住み慣れた地域で就労し、自立して暮らせるよう支援を行うとともに、地域で見守りながら一緒に生活していく地域福祉の重要性が増しています。

このことから、地域で支え合い、互いの絆を深め、安心して暮らすことができる住民主体の福祉コミュニティづくりを進めます。

主な取り組み

地域福祉

- 福祉コミュニティの基盤強化に努めます。
- 福祉に対する意識の高揚を図り、ボランティア活動を支援します。
- 権利擁護事業の啓発・支援を行います。
- 認知症の予防と認知症在宅生活者の地域における見守り体制の整備を進めます。
- 障害児・障害者の地域生活支援体制を整備します。
- 生活困窮者に対する包括的な相談支援の実施により、

個々の状況に合わせた就労や生活自立・社会自立に向けた支援を行います。

- ひとり親家庭の現状を把握し負担軽減を図るとともに、自立と就労支援に努めます。



高齢者

生きがいをもって地域に貢献する
活躍する高齢者

現状と方向

人口減少、少子高齢化が進む中で、これまで地域や産業を支えてきた高齢者の役割が見直されています。

高齢者が長年培った知識や技術は、これからの社会で欠かすことはできない財産です。

このことから、高齢者が地域に貢献しながら、生きがいをもって暮らし、活躍できる取り組みを進めます。

また、介護予防対策を進めるとともに、高齢者福祉サービスなどの充実を図り、高齢者が生活しやすい社会づくりを進めます。

主な取り組み

高齢者の活躍

- これまでの経験で高齢者が培った知識や技術を継承する取り組みを進めます。
- 高齢者の就労や地域活動の支援を行います。
- 高齢者が生きがいをもって暮らせるよう、地域での主体的な活動や老人クラブ活動などへの支援を行います。

介護予防

- 地域包括ケアシステムの構築を図るとともに、関係機関と連携した相談や支援体制の整備に取り組みます。
- 在宅での自立した生活維持のため各種サービスの提供を行います。
- 介護予防事業を推進し生活機能の低下防止に取り組みます。



生活安全

日常生活の安全・安心を地域で守る

現状と方向

詐欺被害や自動車事故、インターネットを使った犯罪など、現代社会がもたらす新たな被害や課題に対応し、安全で安心して暮らせるまちづくりが必要となっています。

このことから、誰もが安全で安心して暮らせるため、安全や防犯に対する意識の高揚と予防を中心とした取り組みを進めます。

主な取り組み

防犯

- 地域ぐるみで防犯対策を進めるなど、地域防犯体制の強化を図ります。
- 防犯パトロールの体制強化や防犯意識啓発活動の推進など、住民の防犯に対する意識高揚を図ります。
- 防犯カメラの設置を推進し、犯罪防止や検挙率の向上につなげます。

交通安全

- 子どもから高齢者まで、それぞれの世代における安全教育を実施し、交通安全意識の高揚を図ります。
- 子どもたちが安全に通学できるよう通学路の安全確保に努めます。

消費者保護

- 消費者の安全と安心を確保するため、的確な情報提供による消費者啓発を推進するとともに、消費生活センター機能の充実を図ります。



防災・減災

自助・共助・公助で災害を防ぎ、備える

現状と方向

近年、日本各地で異常気象による自然災害が発生しており、本市においても大雨や大雪などにより災害が発生したこともありました。

このような災害に対しては、地域や家庭で防災に対する意識向上を図るなど、市全体で災害に備える意識を高めることが重要です。

このことから、消防団や自主防災組織などを中心に、「自助」・「共助」・「公助」が連動した防災・減災への取り組みを進めるとともに、災害に備えた危険箇所の解消に向けた取り組みを進めます。

主な取り組み

消防団

- 消防団員の確保に向けて、消防団活動に対する住民の理解を図るとともに、地域行事への協力等により地域との連携強化に努めます。
- 消防団に入団し、活動しやすい環境をつくるため、消防団協力事業所表示制度を活用するなど事業所への協力を求めます。

防災

- 「自助」・「共助」・「公助」それぞれの防災・減災活動を充実させるとともに、自主防災組織の結成・活動を支援します。
- 自主防災組織の市防災訓練等への参加機会を確保し、継続した活動と災害時の迅速な対応につながるような取り組みを進めます。
- ハザードマップを活用し、土砂災害危険区域や浸水危険区域など、地域の実情に応じた防災講習を実施するなど災害に備えた意識向上を図ります。

危険箇所

- 市街地における大雨等の被害軽減のため、雨水排水路整備計画を策定し、計画的な雨水排水路の整備を促進します。
- 水害・土砂災害などから生命や財産を守るため、河川、砂防や急傾斜地保全施設などの整備を県に働き掛けるとともに、補助制度等の周知を図ります。



地域

地域を見直し、地域を盛り上げる

現状と方向

私たちは、仕事や子育て、おまつりなど、自分の住む地域を中心に日常生活を送っています。しかし近年は、人口減少や生活スタイルの変化から、地域で集まる機会が減るなど、コミュニティの維持や伝統行事の継承が困難になるなどの影響も出始めています。

このことから、地域を見つめ、考え、楽しみながら、自分の住む地域を盛り上げるための地域づくり計画の実現に向けた取り組みや、地域が元気になる自主的な取り組みを積極的に支援し、各地域の活性化と市全体の活力向上につなげます。

主な取り組み

地域づくり

- 既存の「町内会等活動支援交付金」等の充実を図るとともに、地域での子育てや健康づくりといった新たな取り組みも含めた支援制度の設計を進めます。
- 地域住民がいつでも気軽に集い交流の中核施設となる集会所などのコミュニティ施設の整備、改修を支援します。
- これからの地域を支える地域づくりリーダーを育成するため、協働のまちづくり研修会や補助事業活用団体報告会を開催します。
- 市内4カ所の市立公民館を各地域の地域づくりの中核拠点と位置づけ、自治組織への活動支援のほか広域的な自治活動の連携を支援します。
- 共通の生活地域（小学校区）で地域づくりを支え合う連合的な地縁組織（小規模多機能自治）の導入を検討します。



宝の活用

- 特色ある地域資源を地域づくりにつなげるため、宝を活用した個性的な地域づくり活動を支援していきます。
- 地域の宝を活かしながら都市住民との交流を推進するとともに、地域おこし協力隊制度の活用により地域活性化を支援します。



生涯学習

誰でもいつでも学べる
地域ぐるみで交流を深める

現状と方向

情報があふれ変化の激しい現代社会において、自ら考える、学ぶといった機会が少なくなっています。一方で、人とふれあい、考え、学ぶことは生きるための力となります。このことから、子どもから大人までが生涯を通じ様々なことが学べる環境づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域などが連携し、地域全体で交流しながら子どもを育む環境づくりに取り組みます。

主な取り組み

生涯学習

- 学校、家庭、地域、企業、NPOなどが一丸となり、地域ぐるみで子どもを育む環境づくりに努めます。
- 生涯にわたって自主的に学び続けることができる環境づくりを進めます。
- 高齢化や人権擁護、男女共同参画社会の形成など、新たな社会的課題に対応する学習活動を推進します。
- 放送大学岩手学習センター二戸校を活用し、市民の「学び直し」の機会の充実を図ります。
- 人づくり・まちづくりの拠点として、公民館活動の内容充実を図るとともに、施設整備の方向性について検討します。



図書館

- 市民が利用しやすい図書館を目指し、蔵書や資料の充実を図るとともに、図書館システムの活用を進め、利用者の利便性とサービスの向上に努めます。

国際交流

- 異文化を理解する機会の提供により、誰にとっても住みやすい多文化共生社会を目指します。



生活環境

環境にやさしいまち
ごみ減量に取り組むまち

現状と方向

環境にやさしい製品の普及により、私たちが日常生活で地球環境に与える負荷は少なくなってきました。

しかし、貴重な動植物が生息する折爪岳や稲庭岳など、本市の恵まれた自然を次の世代に引き継ぐためには、より一層、環境について考え、環境を守るために行動し、自然環境と共生し地球にやさしいまちづくりを進める必要があります。

このことから、環境を意識し、ごみの減量化など自分にできる環境負荷を抑える取り組みを推進するとともに、再生エネルギーの活用やエネルギーの地産地消などの取り組みとあわせ環境にやさしいまちを目指します。

主な取り組み

ごみ・環境

- 市民、地域や民間企業に環境問題やごみの減量・資源化などの情報提供を行い、地域全体で環境保全やリサイクルを推進します。
- ごみの減量化を図るため、分別ルールの周知や適切な処分、リサイクルを推進します。
- 水分量が多く、排出量への影響が大きい生ごみの処理方法について検討します。
- 中心市街地の道路沿いに集積ボックスを設置し、環境美化を推進します。
- 県境産業廃棄物不法投棄現場の跡地活用と後世に伝える仕組みを検討します。



エネルギー

- エネルギー資源の地産地消の観点から、再生可能エネルギー電力の導入促進に取り組めます。(再掲 P31)
- 再生可能エネルギーとして十分な価値がある廃食用油を原料としたBDF(バイオディーゼル燃料)の利用促進に取り組めます。(再掲 P31)
- 運輸部門におけるCO2削減のため、次世代自動車の普及・啓発に取り組めます。(再掲 P31)
- 再生エネルギー発電施設が集積する地域性を生かし、水素エネルギー等の利活用など、地球温暖化対策を含めた新たな社会システムの構築を検討します。(再掲 P31)
- 冷暖房、給湯の省エネルギー化や冬期間でも暖かく暮らせる省エネルギー住宅、省エネルギーリフォームを推進します。(再掲 P31)



公共交通

暮らしの足を確保
利用しやすい公共交通

現状と方向

移動手段を持たない高齢者や子どもにとって、バスや鉄道などの公共交通は欠かせない足となっています。

また、市外から来た人たちの移動にも公共交通が大きな役割を果たしています。

一方、公共交通の利用者は減少しており、このことが、路線の廃止、運賃の値上げなど、利用者の利便性低下や経済的負担の増加を招いています。

このことから、暮らしを支えるための公共交通機関の在り方を、地域全体で検討するとともに、民間と行政が協調した運行経路の設定や運賃の低廉化など、利便性の高い公共交通体系の構築を進めます。

主な取り組み

- 市中心部で路線バスとコミュニティバス(循環バス)を組み合わせることで、利用者の利便性向上を図ります。
- コミュニティバスとスクールバスが重複して運行している区間でスクールバスの混乗化に取り組めます。
- 地域の実情に即した見直しを進めるとともに、道路環境やまちづくりの状況を踏まえながら、路線バス、コミュニティバス、スクールバス等を含めた地域公共交通網の再編整備を推進します。
- 住民が公共交通を維持・活用する主役であるという意識醸成を図るとともに、利用促進に向けた支援制度の検討を進めます。
- IGRいわて銀河鉄道を今後も維持していくため、鉄道会社をはじめ県や他の沿線自治体と連携し、利便性の向上や利用促進に努めます。

